

2021年11月10日

株式会社キトー

本日2021年11月10日に実施いたしました2022年3月期第2四半期決算説明会での質疑の要旨を、下記のとおり公開いたします。

質問1：米国市場の需要見通しについて。コロナ禍を経て回復した需要は、コロナ禍後の需要を消化後、急減する可能性は。

需要は2020年度の第1、第2四半期に大きく落ち込んだが、第3四半期以降は、力強い回復基調が続いている。現時点の受注ペースは、コロナ禍の遅れの取り返しというより、経済活動の回復を基にした需要と認識している。下期の見通し、指標となる業界の動向、これら予想値を総合的に勘案し、現時点では急激な減速は想定していない。

質問2：欧州セグメントの第2四半期損益が黒字転換している。黒字化の背景と今後の見通し、また買収企業間の相乗効果の進捗状況を教えてください。

欧州は機能の異なる4社で事業展開している。これまで手掛けてきた欧州戦略が、ようやくテイクオフしかかっている状況で、第2四半期に欧州全体で損益レベルが若干回復してきている。日本で生産した製品の販社機能を担うキトーヨーロッパ（ドイツ）が売上の拡大に伴って、固定費を吸収、利益転換することで欧州事業をけん引している。

ここ数年で買収したイタリア、フィンランド、オランダの各子会社は、まだ単体レベルで黒字に転換する段階ではないが、欧州事業全体で捉えると、採算ベースに近づいてきた。下期に向けて、一層の損益改善に加え、事業の拡大も見込んでいる。4社で一つのグループとして、営業活動を展開する体制が整い、シナジーが発現する段階に入りつつある。

フィンランド子会社は自動車を中心とした設備投資に高い依存度をもつ事業構造で、オランダ子会社は石油やガス等の天然資源産業への投資が中心、各子会社で回復のペースに若干のズレが生じている。オランダ子会社が先行して回復し、フィンランド子会社が追いかける形を想定している。

質問3：資材費高騰は第3四半期以降も価格転嫁で、同様に吸収できるのか。今期の計画には、資材費高騰の影響と価格転嫁とを、どう織り込んでいるか。

第2四半期に計上した資材費高騰の影響は、中国における鉄鋼材料の値上げが大半。その他の地域、素材でも上昇傾向が続いており、第3四半期以降に影響し計上される見通し。売価改訂は北米と欧州から順次、実施されている。今期中に値上げで吸収するのは、価格転嫁のタイミングのズレや資材費の高騰もあり難しく、吸収しきれない分が2~3億円程度発生する見込みで、今期の着地見通しに織り込んでいる。

質問 4：資材、部品の不足により生産調整をしているか。下期の工場稼働率をどう見ているか。

一部の部品調達に苦戦している状況。とりわけ電動製品に使われる電装部品や、ナイロンを中心とした樹脂関係の部品が不足している。手動製品は需要に見合った生産を維持できている。電動製品は生産スケジュールを若干組み替える必要が出ており、海外子会社への製品供給を遅らせている。この状況は、向こう3か月程度継続すると見ている。

これから11、12月が生産のピークで、それ以降は3月に向けて緩やかに生産が安定化、下期を通しての生産負荷は、過去最高レベルとほぼ同等と想定している。一部の工程においては24時間稼働も含め、旺盛な需要に対応している。

質問 5：適正な借入れ水準を、どのように考えますか。

適正な借入水準の指標は持っていないが、短期借入金は今現在50億円の水準で推移しており心地よい状況。今後の成長に向けた投資を確保できる水準と認識している。一時期は100億円を超える水準だったが、ここ数年は返済に注力してきた。財務状況が健全化し、次なる成長投資のフェーズに入っている。今後は一部借入を上乗せする場面も出てくると想定する。

質問 6：欧州子会社の製品力や技術力を、北米でのさらなる市場戦略として見込んでいたと思うが、その進捗は。

順調に進んでいる。オランダ、フィンランドで獲得した各子会社の製品は、計画通り北米市場への投入が始まっているもの、発売に向けて準備が佳境に入っているものなど、ほぼ計画通りに進んでいる。それが北米事業の拡大に一役買っている。

質問 7：現在のキャッシュコンバージョンサイクルは、過去と比べると改善の余地があると思うが。

従前から在庫水準の適正化を課題として進めてきたが、足もとではコロナ禍を経て一気に回復途上にある需要に応えるため、在庫を切らさないことを最優先に取り組んでいる。海上輸送のリードタイムがほぼ2倍に長期化し、在庫水準が高止まりしている状況。短期的なキャッシュコンバージョンサイクルの改善は、一時的に棚上げして、抜本的な取り組みは環境が正常化した際にあらためて取り組む。

質問 8：中国市場においては品質、安全性重視の指向から、キトーブランドのシェアは上がっていると聞いているが。

中国では信頼に足る市場統計が無く、正確な市場占有率を示す公のデータはない。私どもの推計では、じわじわとシェアが拡大していると思う。欧米の競合先からシェアを奪っているものの、中国企業から本格的にシェアを奪って拡大する段階に至っていないという認識。

質問 9：中国やアジアの液晶関連投資は回復していないか。

液晶、有機 EL、フラットパネル関係の投資需要は、これまで韓国中心だったが、韓国勢の相対的な地位が下がっている。液晶関連向けの設備投資は中国を中心に少しずつ回復基調にあるが、これを取り込めていない。

韓国でこれらの設備投資計画が動き出しているという認識もあり、既に何件かプロジェクトを受注しており、全体としては少しずつ回復するものと考えている。

質問 10：設備投資について、欧州における M&A も一巡しているように感じるが、投資の強化を考えている分野やエリアについて教えてください。

既存の生産設備をさらに強化、強靱化していくための設備投資ニーズが、国内、北米、欧州、アジア、それぞれにある。欧州もまだまだ一巡という状況ではなく、これから新たな事業、製品の獲得を目論む M&A も、可能性として検討されている。この先も積極的な投資需要が引き続きあると考えている。

本件に関するお問い合わせ

株式会社キトー

コーポレート・コミュニケーション部

TEL: 03-5908-0161

MAIL: ir@kito.com